

黒潮

高い山々と南からの黒潮がもたらす温かく湿った空気が組み合わさって、屋久島に豊富な降雨量と緑が生い茂る森を授けています。この潮の表層の水の速い流れもまた、海洋と陸両方の生態系に影響を及ぼしています。豊かな海とこの島の亜熱帯気候が、屋久島を日本におけるサンゴ礁の最北限にしています。

黒潮について

クロシオ（直訳すると「黒い海流」）は深さ 600 から 700 メートル、幅は最も広いところでは約 200 キロメートルあります。この海流の流速が速いエリアは狭めで、約 40 キロメートルほどになっています。この海流はフィリピンの東海岸沖に始まり、通常は台湾の東側を経て東シナ海に入り、沖縄や奄美群島の西側へと北上し、トカラ海峡を通過して太平洋に戻り、その後北東方向に流れて屋久島や種子島の東側へと向かって行きます。その水は温かく、塩気があり、透明です。この海流の温度は、その方向や速度と同じように、場所や季節、また風によって変化しますが、一般的には 15℃から 30℃です。真冬でもその平均水温は 19.2℃です。

黒潮は海洋生物の多様性を維持するための栄養素やミネラルをもたらし、サンゴや熱帯魚はその温かい水の中で繁栄します。ウミガメもこの海流に沿って回遊し、産卵のために屋久島に上陸します。

ダイビングおよびシュノーケリング

屋久島の栗生や一湊といった海水浴場ではダイビングやシュノーケリングの機会が豊富にあり、どちらも水中の花崗岩層を背景に、温帯地域にいる亜熱帯や熱帯の魚を鑑賞するには最適な場所です。

栗生海水浴場

黒潮の温かい水は栗生海水浴場のすぐ沖を流れており、多くの熱帯魚に最適な生息環境をこの場所に提供しています。代表的な種としてはオヤビツチャやチョウチョウウオなどがあります。環境省が発表した 2010 年の調査報告書によれば、91 種の魚類と 34 種のサンゴがこの地域の海域で見つかっています。干潮時には、栗生の塚崎タイドプールは稚魚、イソギンチャク、サンゴ、ウニ、ヒトデの天然の水族館になります。

行き方：車で安房港から約 42 分、宮之浦港から約 68 分、または屋久島空港から約 51 分

一湊海水浴場

一湊は、黒潮が作り出した豊かな餌場に引き寄せられたゴマサバが多く捕れることで知られています。一湊の水域のサンゴには、ハナガタサンゴ類 (*lobophyllia*)、ハマサンゴ類 (*poritidae*) 造礁サンゴ、畝状またはフリル状のサザナミサンゴ類 (*merulina*) 造礁サン

ゴなどがあります。風や潮の流れ、また浅い海底といった一湊海水浴場の良好な条件がこの場所を人気のダイビングスポットにしており、黒潮が屋久島に近づいて水温が上がり、水の透明度が増す七月から十月にかけては特に人気があります。インストラクターを伴ったダイビングが推奨されています。

行き方：車で安房港から約 40 分、宮之浦港から約 14 分、または屋久島空港から約 29 分

漁業

屋久島の周辺海域は、日本で最も多くの魚種が生息する場所です。これは、一つには黒潮が島の南側から魚はもちろんその餌となるプランクトンや他の栄養分も運んでくるからです。主な漁獲はトビウオやサバですが、その他の特産物には、ムツ、メダイ、カンパチ、カツオ、アサヒガニ、イセエビ、アワビ、エビなどがあります。